

# ART MIND

2012 秋季号

ヴェローナ発  
『ロミオとジュリエット』解析塾

世界の傑作、奇跡の集結  
エル・グレコ展

メトロポリタン美術館展  
大地、海、空—4000年の美への旅

リヒテンシュタイン  
華麗なる侯爵家の秘宝

欧州ルポ

# ヴェローナ発、『ロミオとジュリエット』解析塾!

文と写真 山田 哲 (スペイン文化研究者)



古代ローマのフォーラム(公共広場)跡にできたエルベ広場

今イタリアのアート界ではヴェローナに注目、正確にはヴェローナ市からバスで約二〇分、ブッソレンゴ村に既成概念が通じない男が現れたのだ。セラフィノ・ルダリ、家族中にアーティストを持つサラブレッドで、自然彼は子供の頃からアートに興味を抱き、一五歳の頃には既に「色」にとり付かれ、自分の感情を色で紙に叩きつけることに夢中だった。以降自分でいかに素早く感情を失う前にキャンパスに移すか研究を重ね、現在彼は上質厚紙にアクリル絵の具で絵を描く。時として上質厚紙に他の切った上質厚紙をホッチキスで止める。時としてバーナーで絵を

乾かす、彼が注目されるようになったのはほんの数年前に音楽とのパフォーマンスに取り組み始めてから。小さい頃ピアノを弾くのが好きだった彼には音楽との出会いは彼にヒントを与えた。今では思わぬ音楽に出会うと、

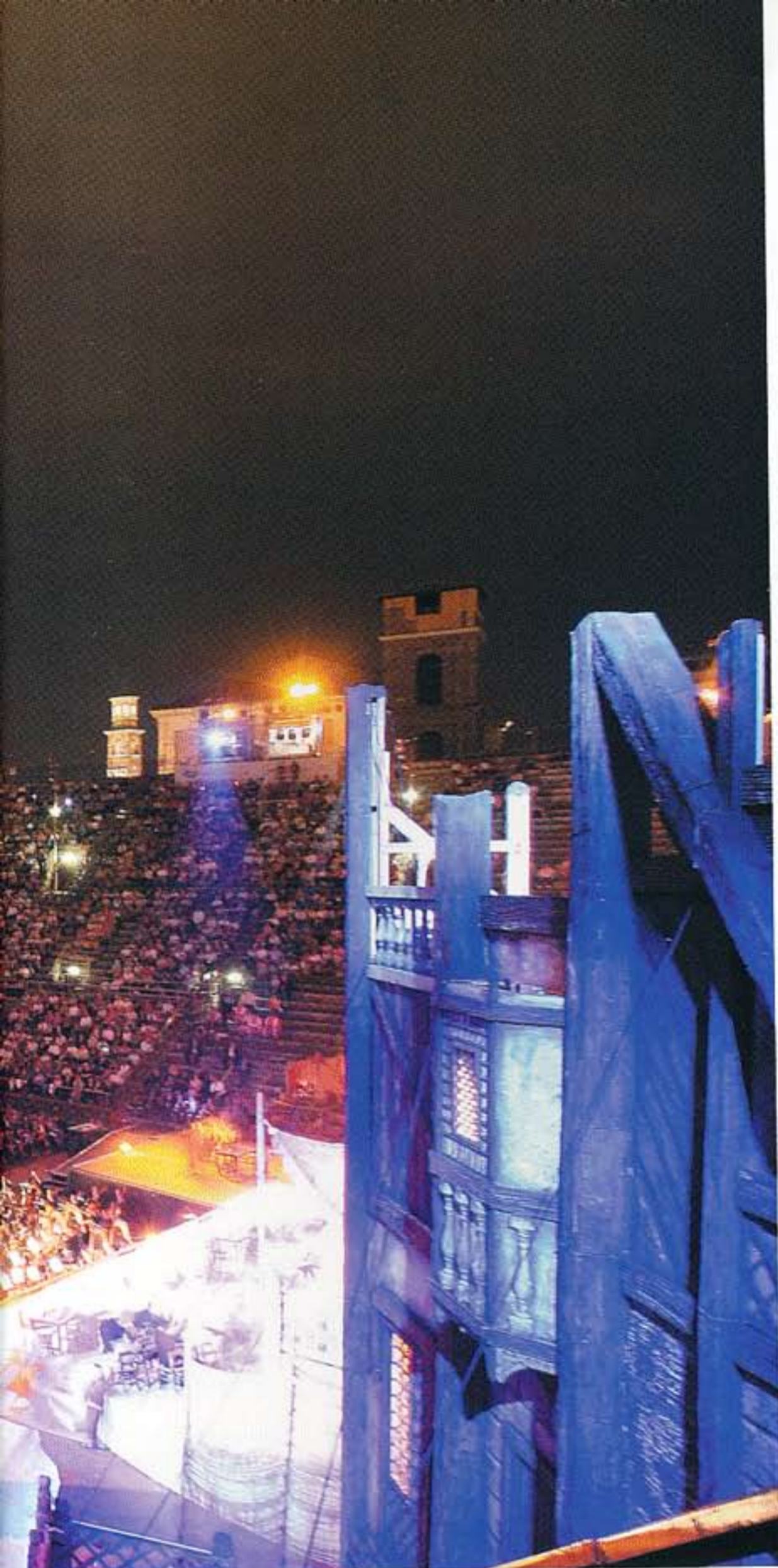
「彼とセッションしよう！」

そしてミュージシャンとライブでセッションする。音楽でインスピレーションを得て絵を描くのだ。ライブはすべて即興、例えばセラフィノが適当にキャンパスを叩く、そこからミュージシャンが音楽を奏でる。今度はセラフィノがそれを聴き、それをもとに絵を即興する。POP、タンゴ、バイオリ

ン、シンガーソングライター、徐々に概念に捉われないセッションと作品が注目され、ライブに観客を集め、マスコミにも取り上げられ始めた。スポンサーとなって絵の具を提供する会社も現れ、イタリア・アート界でホットな存在、彼の挑戦は形になり始めた。勿論ミュージック・セッションを初めてまだ数年、絵が革命を起こし始めたばかりだが、自分の信じる道に突き進む彼には是非頑張ってほしい。

ヴェローナ、その街の歴史は実に先史時代に遡る。先史時代末期にはすでに集落が作られ、ガリア人やローマ人と交流があった。紀元前三世紀には共

和政ローマとの同盟関係に入り、ガリア人のローマへの進攻などの際には同盟都市としてローマ側で戦った。のち紀元前四二年頃ローマの領土に編入され、ローマ都市となり、円形闘技場や円形劇場などが市内に建てられた。アディジェ川の渡河点であるヴェローナは、ローマと北方および東方属州への連絡点として四つの街道が交わる交通の要衝、そのため度々侵入を図る蛮族との戦いの場となった。その円形闘技場、アレナ・デイ・ヴェローナは現存していて、一九一三年ジュゼッペ・ヴェルディ生誕一〇〇周年を記念して『アイータ』が公演され、音楽家ブツ



アレナ・デイ・ヴェローナ、観客席の様子(2009年、「カルメン」より)  
Photo: Ennevi, Courtesy of Fondazione Arena di Verona



ブラ広場 右にコロシウム、  
現 Arena di Verona(アレナ・デイ・ヴェローナ)、  
屋外オペラ、名物はもちろん「ロミオとジュリエット」





アレナ・ディ・ヴェローナ ローマ時代の闘技場であり、現オペラ座

チーニや小説家カフカも見に来たという。意外なまでの音響の良さ、以降夏になるとマリア・カラスをはじめ歴代名オペラ歌手が集うようになり、今や世界のオペラファンの最高の屋外劇場として名を馳せ、現在の名物は勿論『ロミオとジュリエット』、なにせ地元ヴェローナが舞台のシェイクスピアの最高傑作。今ヴェローナは純愛の街として女性たちに人気の様子。だが正直この作品の展開を知っていても、何人が実際に読み、劇場で見たかというと実際そうは多くないのでは？脚本形式は読みにくいとか、長い韻文の台詞は難しいとか。以前ロイヤル・シェイクスピア劇団にも所属したイギリスの名優ケネス・ブラナーの監督主演作『ハムレット』を観に行ったときのこと、上映後女の子たちが、

「熱く語りまくってたよね…」

と主人公の韻を踏みつつほとぼしる大量のセリフに圧倒状態。彼女達、名前しか知らない名作がどのようなものか知りたくて来たらしいが思いっきり戸惑っていた。そこで今回は皆さんがシェイクスピアに触れるお手伝い、『ロミオとジュリエット』解析講座！

シェイクスピアを語る上でまず当時の劇場の話をしなければならぬ。当時のエリザベス朝劇場、照明は太陽光線、だからさり気無く場面ごとに昼かよるか客に知らせるセリフが必要になり、背景はなく、二、三の小道具で場所を想定させていた。よって細部の場面設定には観客のインスピレーション

が必要になる。台詞が背景代わり、自然と長く、しかも詩的になってくる。シェイクスピアだけが脚本を詩的台詞で埋めていたのではない。それが普通であり、その中で特に表現に優れているのがシェイクスピアというわけ。実際『ロミオと』は猥談やきつめの冗談、卑俗な言葉づかいで埋まっていた。どちらかというと大衆文学であった。演劇の理解には、

「劇場システムの理解が絶対なので（クラナダ大学教授マリア・アンヘレス）」

もう一つはエリザベス朝の舞台。基本は観客席に突出する外舞台、それを客は三方から囲む。外舞台の奥には幕付の内舞台、その真上に二階舞台と三段階構造、これを場面ごとに使い分ける。基本的に幕無し背景無しなので場面展転換点は俳優の入退場、ストーリー展開は意外なまでに速かった。現代の劇場は舞台の突出がなく、俳優は台詞度に観客を向く、通常場面展転換にはセットを変えるために幕が下りる。現代でシェイクスピアを演ずるにはまずこの劇場の違いを演ずる側が理解し、どうするか考えることが不可欠で、これをやり違えると見る側が「？」となる。この点だけはシェイクスピアの難しさではある。

さてヴェローナにはエルベ広場のすぐ脇にジュリエットの家があり、そこからまた裏に入るとロミオの家、そしてジュリエットの墓も存在する。最初の疑問、これは町興しの作り物？



ジュリエットの家のおすぐ右脇、エルベ広場 絶えず市が開かれています

ユリエットの秘書「ジョバンナは、  
「すべて昔からあったものです。正  
確ないわれは分っていませんが。」

因みにジュリエットの秘書とはジュ  
リエット宛てに世界から送られてくる  
恋愛相談に乗ってあげようという、一  
九七二年に創設された文化団体ジュリ  
エットクラブを母体とするボランテイ  
ア団体。二〇一〇年に彼らを扱った映  
画『ジュリエットからの手紙』の公開  
の影響で現在では年約五〇〇〇通の相  
談が来て、毎年そこから相談事ベスト  
3が選ばれ、ヴェローナに招待される。  
さてそんな彼女、

「ジュリエットの家は十二世紀家か  
らデル・カペッロ（後のキャピュレッ  
ト）邸として、ジュリエットの墓は一

八世紀にはジュリエットのファンの訪  
問の記録とともに存在、一九世紀には  
ロミオの家も現れました」

「若者の恋愛は別として、当時ヴェロ  
ーナにはキャピレット家とモンタギユ  
ー家が互いに激しく反目し合い、ダン  
テがそのことを書いているのは確かで  
すよ。」

調べてみると確かにダンテの「神  
曲・煉獄編」第六歌（一四世紀初頭）  
にモンテッキとカッペルレッティの名  
前で扱われていた。相当両家の確執は  
有名だったのでろう。モンタギュー家  
の一人息子でロザリオへの片思いに悩

ポルタ・ヌオーヴァ門をくぐると町の中心、ブラ広場、この後ろにシエイクスピアの像があります





“ジュリエットの家”、ジュリエットがロミオの愛のささやきを聞いたバルコニー 恋人たちの記念写真のメッカ！

むロミオがジュリエットに一目惚れし、修道僧ロレンスとその移り氣に呆れつつ二人を結婚させるのはヴェローナの両家の争いに終止符を打つためであった。さて問題は争いの原因、教皇派（ゲルフ）と皇帝派（ギベリン）の対立とするのが一般的のようだ。一二世紀から一三世紀の北イタリアにおいて対立するローマ教皇と神聖ローマ皇帝をそれぞれ支持した都市、貴族達を指すが、実質的に両者の争いは一二六八年に終わっている。しかし都市間で、若しくは都市の内部で長い間政治が安定せず、派閥争いが多発した。それを表す際にも便宜的にゲルフとギベリンと言う言葉が使われる。「ロミオとジュリエット」は原因に触れていないが、舞台は

一四世紀であることには注意。余談だがダントはこの政争に巻き込まれて当時在住のフィレンチェから追放され北イタリアを放浪すると勘違する向きがあるが、実際に巻き込まれたのはゲルフ党内の派閥争い。一三〇一年に彼はフィレンチェを去った。個人の意見で恐縮だが興味深いのは一六世紀ごろから活版印刷が盛んになり、一五五五年ヴェネチアで「神曲」がいわゆる「神聖喜劇」（注1）として刊行されること。「ロミオと」の折り本（注2）が一五九七年に見つかっている年代からして、もしかしてシェイクスピアも「神曲」を読んだのでは？

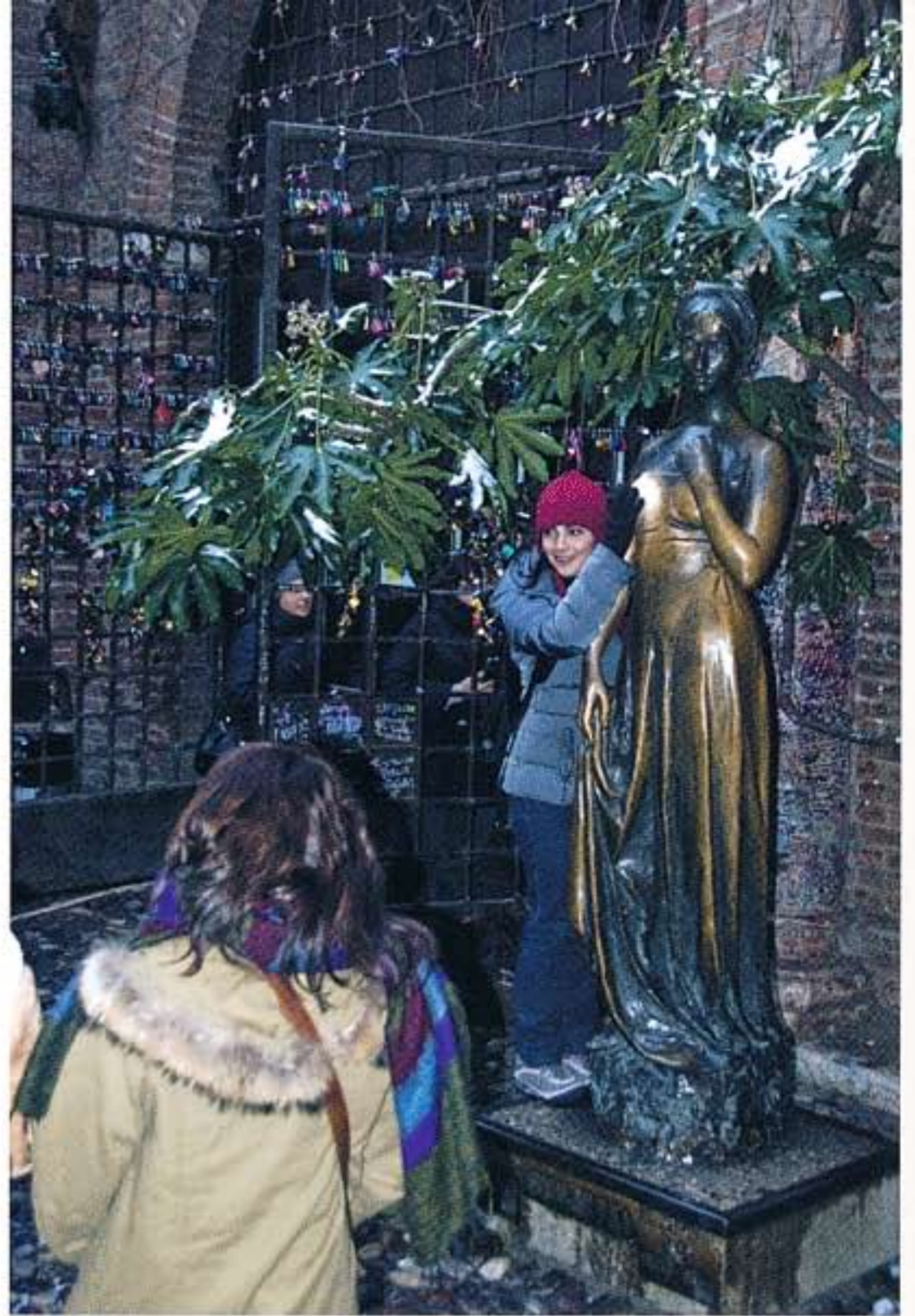
この事実は「ロミオと」が本当に描きたかったものは何か、も問いか

右側の手前から2番目がジュリエットの家への入り口





ジュリエットの家の中の恋愛相談用ポスト  
実際にキャピュレット家の家だったそうです



“ジュリエットの家”の中庭、ジュリエット像  
右のおっぱいを触ると幸運が訪れるんだとか…



“ジュリエットの家”内部、オリビア・ハッセイ主演の  
「ロミオとジュリエット」で使われた衣装



ジュリエットへの恋愛相談、日本語もありました  
私は中身を読んでませんよ、言葉を確認しただけ、誓って



“ジュリエットの家”内部、オリビア・ハッセイ主演の  
「ロミオとジュリエット」で使われたベッド



“ジュリエットの家”2階部分  
ロミオとジュリエット関係の作品が展示されています



る。悲恋？それだけではないはず。よく女性目当てに恋愛シーンばかりをピクアップしてそれを真似たりするドラマやCMを見かけるが、この物語は実はヴェローナ太守の前でモンタギューとキャブレットが和解して終わることを忘れてはならない。ダンテがヴェローナのパトロンであるカングランデ一世に「人生における道徳的原則を明らかにすることが『神曲』を執筆した目的である」と手紙に記したことも私には興味深い。実は主要テーマが何かは実は現在でも論争的、前半に笑劇の要素を持ち、また愛や運命、運不運論などが入り組んでいるのでなかなか結論が出ていないのが現状だそうだが、人はいいことも死ながら悪いこともする」と解釈するのは、少数説だ

が、両家に「だからお互いを赦し合え」と呼び掛けているようで私には説得力がある。さて両家の争いは事実として、ではそこに悲劇の二人は存在したのか。もう一人のジュリエットの秘書、ララは、「分らないわ。でもこのように若く思いつめる二人って、実はどこにでもいるんじゃないかしら。実在しても不思議はないわ。」スペインにはクエンカと言う場所があり、そこでは愛し合う二人が家名の前に恋愛を阻まれ、最後にお互いにシヨック死してしまう実話が残っていて、中世の昔からその話を扱う「イサベルの結婚」祭りが始まり、それは伝統となった。ではロミオとジュリエットも期待できる？ ジョバンナは冷静だ。

「さすがにフィクションでしょう。シエイクスピアの作品は翻案もので、元をただせばギリシャの古典にまで辿り着くんです。」実はシエイクスピア自身の物語はオリジナルではない。一五六二年のアーサー・ブルックス「ロミウスとジュリエットの秘話に換る翻案。だが古代ローマの詩人オウィディウス作『ピュラモスとティスベ』(注3)からもインスピレーションを得ていて、特に『ピュラモスとティスベ』は自作『真夏の夜の夢』の中でも触れているのでお気に入りなのであろう。ロミオとジュリエットは伝説としては当時既に存在していたよいうで、初めて物語の中に登場するのは一五三〇年イタリア、ルイジ・ダ・ポルタが「二人の高貴なる恋人の物語」

でロメオとジュリエッタを登場させた。ただしここでは二人が最後に対話して、同時に相果てる。その後五四年に同じイタリアでマテオ・バンデルロが『小説集』を出版、その中でシエイクスピアの作品にそっくりなストーリーを発表するが、ここにフランス人ピエール・ボエステューオーがなんと翻訳の際に勝手にストーリーの一部変え、毒薬と短剣の悲劇を導入、それを英語韻文訳したのが先の「ロミウスとジュリエットの秘話」、それをシエイクスピアが再翻案、いやはやジョバンナの言う通り複雑。これなら確かにフィクションなんだろう、と思ったら、私はとんでもないものを見つけてしまった！シエイクスピアと同時代のイタリア人ジョバンニ・デッラ・コルテが愛し合う若



テルエルの恋人、棺の上の二人 奥がフアン、手前がイサベル (写真提供、Asociación de los amantes de Teruel)



テルエルの恋人たちの霊廟 右がフアン、左がイサベル (写真提供、Asociación de los amantes de Teruel)



ロンドンのグローブ座から 男優のすぐ後ろの幕のなか  
が内舞台、音楽隊のところが二階舞台

Copyright ; Shakespeare's Globe



2012年ロンドン、グローブ座公演から「じゃじゃ馬馴らし」  
Copyright ; Shakespeare's Globe (photographer ; Manuel Harlan)



勢揃い！ジュリエットの秘書たち 1列目右端がリーダー格のジョバンナさん、逆に1列目左端がララさん、2列目右から2番目がマヌエラさん

い二人が一三〇三年実際に悲劇起こしたと記載しているのである！もともと誰もその証拠を見つけないに至っていないが…。

だがララは私に釘を刺した。

「実在したかどうかは大事じゃないわよ。大事なのはこの物語が世界中の女性の心を掴んでいることよ！」

ごもっとも！ではなぜこの話が女性の胸を打つのか考えよう？ まず間違いない家父長制社会の中でシステムに立ち向かい愛を貫こうとしたジュリエットの性格だ。ロミオと恋に落ちたとたんロミオを結婚へと自分でリードしていき、自分抜きに成立しそうになったパリスとの結婚を母に向かってNOと言ってしまふ強さ。なんと、急進的！（三人の秘書たち）なこと。シェ

イクスピアが彼女に強い個性を与えたことがこの物語の成功であったことは間違いない。実はシェイクスピアの作品の中で女性がとても強い作品はごくわずか。例えば『ハムレット』のオフィリアは、愛するハムレットが父殺しの犯人を捜すために狂気のふりをしていると知らずに自分の愛は終わつたと苦しみ狂乱、池の中に落ち、溺死してしまう。ブルックスの韻文訳ですでにジュリエットが重要な役割を与えられていたのかもしれないが、実はもう一つ面白い事実がある。当時劇場では女性を演じたのは実は声変わり前の少年（注4）。つまりは天才子役の有無で女性の役的重要性が決まっていたというもの。シェイクスピア作品には男装する女性が多くいるのもその影響。どち

らにしてもジュリエットがシェイクスピアの中で例外的な存在であることは間違いない。それに比べてロミオは薄い。当初は他の女性に恋し、その苦しみの気晴らしにキャピュレット家の舞踏会に忍び込みあっさりジュリエットの虜になる移り気。親友マキューシオとキャピュレット夫人の甥のティボルトとの喧嘩のシーンでは当初理性的に双方に手を引くと説得、だがティボルトは隙を突きマキューシオを殺害、ロミオはこう嘆いてからティボルトに復讐する。

「おお、ジュリエットの美しさが僕を弱虫にした！」

一部の過激フェミニストは、見よ、ロミオの中に潜む男性特有の暴力的衝動こそ二人を悲劇の結末に導いた、と

ロミオを批判する。だがまあ実際はこれが、当時の典型的な男性優位社会の普通の青年（ララ）というところだろう。現にシェイクスピアはロミオの暴力性が悲劇を呼んだと考えてはいないはず。なぜなら実際登場人物がこの悲劇を表すのによくほのめかす言葉は「運命」、ジュリエットに僧ロレンスがロミオの死を告げるシーン、

「どうやら人間ではどうにもできない大きな力が私たちの計画を阻んだようだ。」

この作品がシェイクスピアの四大悲劇と一線を画して扱われるのは悲劇を呼んだのが人間の性なのか、運命なのか、の違いか。背後にある見えない運命の力が必死に生きる若者を翻弄するとき、見る者はそこにドラマチックな



アディジェ川の一風景

ダンテ像  
フィレンツェ生まれですが13世紀政争に巻き込まれ、追放され、ヴェローナに着きました



感傷を抱くのだろう(注5)。ティボルト殺害の後、悲劇の終焉を予感したのかロミオは叫ぶ。

「私は運命に弄ばれる馬鹿だ！」

さて「ロミオとジュリエット」解析講座、役に立ったでしょうか？ さてヴェローナに行った後は勇気をもって劇場に足を運ぼう！シェイクスピアはもう難しくくない！

(注1) ダンテの『神曲』：『神曲』は日本での題名。森鷗外がアンデルセンの『即興詩人』を訳した時に使われた。ヨーロッパでは一般に『神聖喜劇』と呼ぶ。ダンテが一三〇〇年前半に『神曲』を表した際には単に『喜劇』とした模様だが、一五五五年ヴェネチア版の出来が良かったのか、その際に使われた題名、『神聖喜劇』が定着した。

(注2) 最古の折り本：横に長くつなぎ合わせた紙を一定間隔で折りこんで作る本。一五九七年の本は実は盗作本で誰かが劇場に忍び込み、『ロミオと』を見た記憶や印象を含めて書いたもの。シェイクスピアの自筆によるものは二年後九九年に書かれたものが最古である。

(注3) 『ピュラモスとティスベ』：パピロンの美青年ピュラモスと美少女ティスベの恋。彼らの家は互いに敵対する家系だったため、どちらの親もその恋には反対した。

ある時二人は、駆け落ちを決心、パピロンの街のはずれの小さな泉の前の桑の木の前で待ち合わせる。

ティベスが先に着いた。突然闇の中からライオンのうなり声、ティスベはあわてて隠れたが、その時にペールを落としてしまふ。獲物を食べた直後で口が血まみれのラ



イオンは、泉で水を飲むと、そこに落ちていたペールにじやれつき、血まみれにして引き裂いて去って行った。

それから少ししてピュラモスが待ち合わせ場所に到着するが、引き裂かれた血まみれのペールとライオンの足跡を見た彼は、ティスベがライオンに食べられたと勘違いし、絶望のあまり短剣で後追い自殺してしまった。

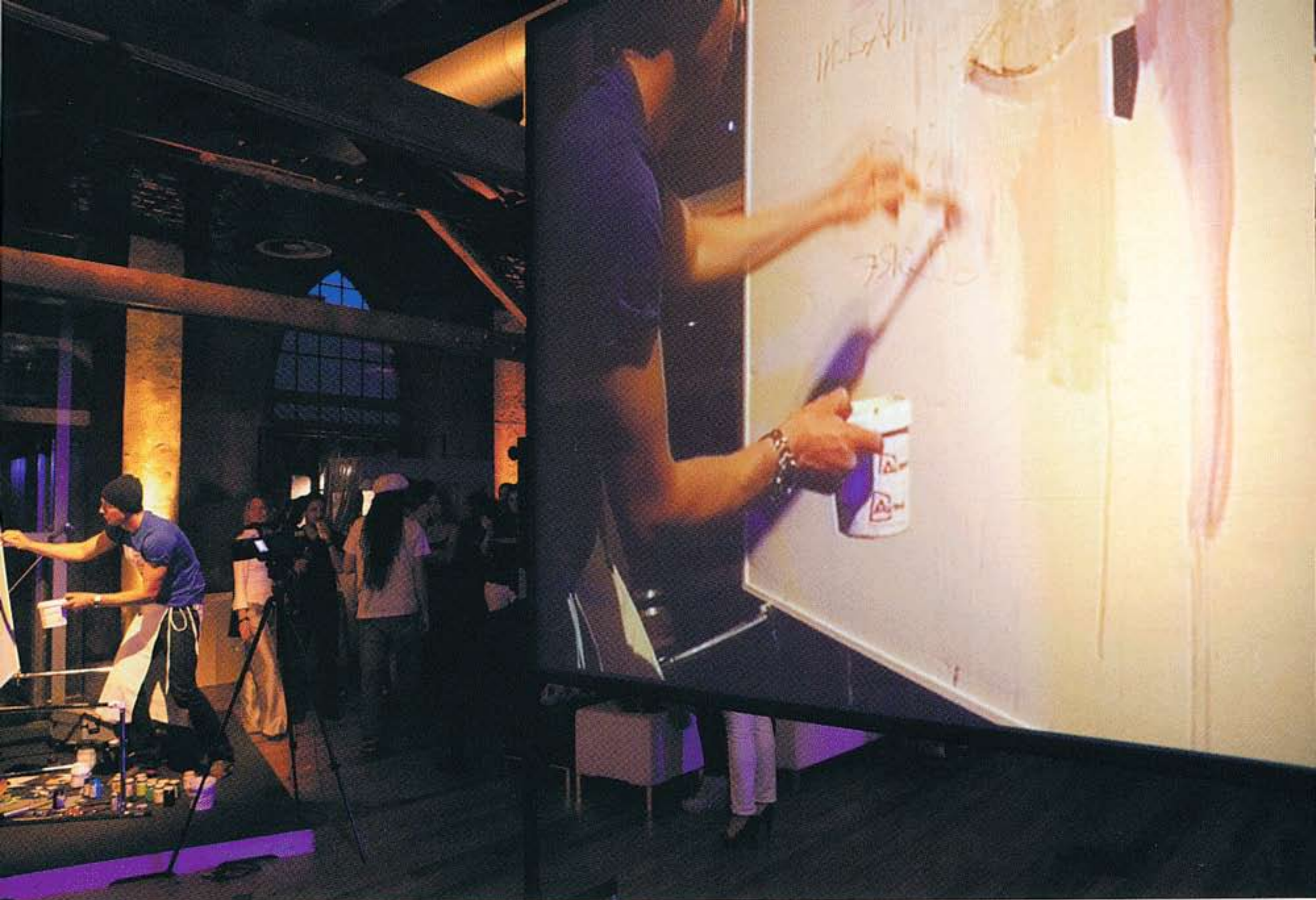
その後しばらくしてティスベが元の場所に戻って来ると、そこには血まみれのペールを握りしめたピュラモスが息絶えていた。ティスベも、ピュラモスの持っていた短剣を取り上げ自殺してしまった。

翌日、ことを知った両家の親たちは嘆き、両家の争いを反省、二人を一つの墓に埋めたのである。

その後、この悲しい恋の結末を見届けた桑の木は、二人が自殺した時に流れ出た血のせいで赤黒く染まった実をつけるようになった。

(注4) 声変わり前の少年：ジュリエットの年齢はなんと一四歳。なんとしっかりもの。ですが私は彼女の年齢設定がやたら若いのは実はこれが原因ではないかと思いません。

(注5) 運命：前半でも軽く触れたが、この要素にもう一つ、二人がカトリックのイタリヤで教義に反する「自殺」と言う解決方法を取ることが加わるために、ストーリーの解釈、主要テーマが何なのか、についてアカデミックな世界でも未だ議論が絶えない。なおシェイクスピアの四大悲劇は『ハムレット』『マクベス』『オセロ』『リア王』の四作。



ヴェローナ市街に現れた新星宇宙人 セラフィノ・ルダリ  
アートライブ中のセラフィノ (Photo : Federico Ambrosi)



とある建築会社の依頼で作成した自分の作品を見つめる  
セラフィノ (当該建築会社オフィス内)



アートライブ中のセラフィノ、  
バーナー使いの達人でもあります  
(Photo : Federico Ambrosi)